平成 28 年度　　事業報告書

社　会　福　祉　法　人　金　太　郎　の　家

デイサービス金太郎の家　地域密着型認知症対応型通所介護事業所
地域密着型通所介護事業所
訪問介護事業所
居宅介護支援事業所
金太郎の家障がい福祉サービス　居宅介護、同行援護事業所
就労支援Ｂ型事業所
日中一時支援事業所
金太郎の家福祉移送サービス　一般乗用旅客自動車運送事業所
有償運送事業所
金太郎の家　集いの場、有償ヘルパー事業所

平成２８年度事業報告

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

社会福祉法人金太郎の家

Ⅰ．総括

（1） 法人のミッションに向けて

だれもが尊厳をもっていきいきと暮らせる地域社会づくりの一助となることを願い、高齢者、障がい者、こどもなど、福祉サービスを必要とする方々が、住みなれた地域において、その人らしい生活を継続できるよう支援することを目的とし、職員一同、一丸となって事業に取り組んだ。

（2）土地取得と障がい者多機能型デイサービスセンター建設に向けての取り組み

理事会　評議員会にて、学頭大井に土地を求め、障がい者多機能型デイサービスセンターを建設するという大きな決定を行なった。これを受け出雲市や島根県への協議を開始した。今まで既存の民家を使って活動をしてきたので、土地取得、建物の建設は、当団体立ち上げ以来、初めてのことであり、役員や諸機関の方々にご指導いただきながら進めた。

まず、土地については出雲市の所有地であり、出雲市管財課に相談、取得に向けた協議を行なった。平成 28 年 7 月 27 日に有財産譲渡申請書を提出、10 月 3 日に市有地売買契約を締結した。11 月 12 日に所有権移転登記を行った。

障がい施設の建設については、4 月 28 日に島根県障がい福祉課に事前協議書を提出、7 月 28 日には島根県障がい福祉課よりヒアリングに来所、8 月 18 日に出雲市へ事前協議書を提出し、10 月には国の方に施設整備計画協議書を提出した。11 月に入り県より平成 28 年度の補正予算での建設への意向調査があり、3 月 22 日に補助金支給の決定通知があった。

障害を持った方々が、安心して過ごせる空間、そして自らの能力を引き出し広げていける場、地域の方々との自然な交流が生まれる場としていきたい。

（3）ヘルパー事業所の移転と障がい者就労支援事業所の立ち上げ

11 月より近隣の古民家をお借りして第 4 活動棟として整備し、10 月 24 日に第 3 活動棟よりヘルパー事業所が移転、11 月 1 日より新しく障がい者就労支援Ｂ型事業所を開設した。障がい者多機能型デイサービスセンターの建設決定を受けたもので、建設後には新施設に移転予定である。10 月 29 日に就労支援事業所の見学会も開催している。

就労支援事業は当法人にとって初めて取り組む事業であり、作業を用意する、工賃を支払うことなど戸惑うことも多かったが、担当職員を中心に協力して取り組んだ。新規に職員も 2 名採用した。ご利用者としては、日中一時支援を利用させていた方数名が就労に移行、新規利用も少しずつ増えてきている。

（4）介護保険の制度改正による地域密着型通所介護への移行と運営推進会議の開催

介護保険法の改正により、小規模型通所介護事業所から地域密着型事業所となり、所轄も島根県か

ら出雲市へ移行した。単価等は今は変わりなし。地域密着型の運営推進会議の設置が義務化され、当事業所は、第1回目を10月5日開催した。詳細は後述する。

（5）利用状況について

年間の総利用件数は、27,225件で総利用料収入は、135,949,736円であった。昨年度に比べ2,003件、約263万円の増であった。件数は増えているが、収入は微増という状況である。

事業ごとに見ていくと、通所介護では認知症型通所介護の利用が秋口から冬場にかけて下がり、月の平均利用人数が10人を切る月もあった。2月頃より回復してきたが、これが影響し、年間の総利用件数は3359件で収入は41,657,580円、昨年に比べ171件、約465万円の減となった。これに対し、地域密着型デイ（一般型）は、年間を通じて12人の定員に対し11人台をキープできた。待機者があり、家庭の事情から毎日の利用を希望される方もあったことから、2月13日より定員を13名に変更した。総利用件数は、3685件で昨年より105件、収入も36,088,848円で約125万円の増であった。通所全体では、66件の減、収入面では約340万円の減となった。

集いの場等の有償デイは、36件179万円の増であった。

居宅介護支援事業は年間延べ件数が1024件1,016,9420円で昨年より38件約57万円の減であったが、困難ケースも多く、手一杯の状態であった。委託を受けて、認定調査も行った。

老人デイサービス事業全体としては、昨年より、68件380万円の減となった。

介護保険訪問介護は、年間訪問数が5010件で収入は15,242,670円。202件約449万円の増、有償ヘルパーは34件の増で訪問介護全体としては、788110円の増となった。

障がい福祉サービス事業では、居宅介護が274件増え1813件5,125,990円（692,330円の増）、同行援護は10件の減、移動支援は437件約486千円の増であった。福祉移送では、福祉タクシーは103件20万円の減であったが、有償運送が5043件で昨年より846件伸び、154万円の増となった。障がい福祉サービス全体では、1443件257万円の増であった。

就労支援事業は、11月から開始したが、利用は11月が85件であったが3月は131件と少しずつ伸びてきている。5ヶ月の延べ利用者数は500人で、3324480円であった。これから軌道に乗せていかなければならない。公益事業の日中一時支援については、就労Ｂ型が始まり移行された方があったこともあり減少している。詳細については、後述のとおり。

（6）通所介護サービスの見直し～その方が必要とされる質の高い、柔軟なサービスの提供を目指して

「ケアの質向上に向けた委員会」及び、通所分科会において、現在提供している通所介護サービスの見直しを行なった。認知症型通所介護において利用率の低下が見られたことも有り、利用者ニーズに添ったサービスの提供に向けて、話合いを持った。原点に立ち返り、ご利用者それぞれは何を目的に、何を望んでデイサービスを利用されているか、住み慣れた、自分の歴史の詰まった家で暮らし続けたいという願いを支えるためにはどんな支援が必要か、自宅を起点にし地域とのかかわりを持ちながら生活していかれるために私たちははどんな役割が担えるか等々、何度も話し合った。

会議では、様々な意見やアイデアが出された。アセスメントを十分に行い、一人一人の背景をもっときちんと掴むべき、個々の状況に合わせてデイ迎え時柔軟に対応する、デイの定着に時間のかかる方は、短時間利用も受け入れる、休まれた方への対応、落ち着いて過ごせる室内環境の整備、時間延長サービ

スの充実、働けるデイサービス、男性向けデイサービス、リハビリの重視など・・・。できることから取り組むこととした。自分たちのケアを振り返る良い機会となった。平成 29 年度の計画にも反映したいと思っている。　2 月頃より、利用は少しずつ回復してきている。

（７）地域支援活動「くまの風呂敷プロジェクト」

平成 27 年度から主に一人暮らし高齢者を対象に、買い物支援サービス、配食サービス、見守りサービスを実施している。買い物支援サービス事業は、一人暮らし高齢者の「近くのスーパーがなくなって買い物に行けない」「自分で見て買いたい」という声を受けて開始している。今年度は、共同募金会の助成を受け実施した。自宅まで迎えに行き、集ってお茶会をした後買い物に出かけ、自宅にお送りするという流れで、この活動は、単に買い物だけではなく、一人暮らしの方の交流の場にもなっている。ボランテアの協力も得、年間延べ 96 人の利用があった。

配食サービスは、認知症のある一人暮らしの方が、市販の配食弁当は届くが置き場所を忘れ食べられないことがある等、十分な栄養が取れず、体調を崩されたことから始まった。当事業所で調理した昼食を持っていき職員が一緒に食べることで食欲も増進し、また、服薬も確認できるようになった。高齢者世帯や、見守りの必要な世帯に、計 221 食提供した。

これに加え、今年度より見守り訪問も実施している。「まめですか訪問」は定期訪問や緊急時対応、電話による安否確認等で、年間 331 回行った。

（８）地域との交流

10 月には毎年当団体が開催している「おちらとウォーキング」に自治会の方々も参加して下さった。自治会内に住まわれている宍道さんが昨年に引き続き遺跡ガイドを引き受けて下さり、地域の遺跡めぐりを行った。地元の歴史を学ぶ良い機会となった。また例年通り地元の荘原コミセン祭りにも参加し、展示やバザーを行い地域の方々と交流した。

（９）人事、研修等

今年度も全職員が研修目標を決めて、自己研鑽に努めた。年度末には、全員報告書を提出した。月 1 回の職員会でもテーマを決めて、研修報告や、講師を招いての内部研修を行った。

病気や出産等のため長期休養や休暇を要とする職員があったが、協力し合って事業を行なった。

（１０）助成金や寄贈

山陰合同銀行様より車椅子の寄贈を頂いた。また丸紅様より、福祉車両セレナを、共同募金様より、「みんなで作る街づくり支援」として助成金を頂いた。

（１１）苦情、事故、ヒヤリハット

今年度苦情として受付をした事例は 23 件あった。連絡ミスなどによるものが複数あった。貴重なご指摘を頂き、今後の事業運営に活かしていきたい。事故報告は、13 件で、転倒等が多かった。、交通事故は、小さな自損事故も含め 15 件であった。小さな事故、苦情も必ず報告するようにし、皆で共有し再発防止に努めた。ヒヤリハットは 39 件で全職員に報告し、再発防止について話し合った。

Ⅱ．各事業の実施状況

［２種社会福祉事業］

１．本部事業

（１）理事会、評議員会の開催

今年度は、法人立ち上げ以来初めてとなる、土地の取得と障害支援事業所の建設というおおきな決定を行った。決定に当たっては、役員、評議員から様々な意見が出され、活発に意見交換が行われた。

また、平成 29 年度からの社会福祉法の改正に伴い、定款の変更、理事会、評議員会運営規程等変更を行った。新たに評議員選任解任委員会の設置が必要となり、その選任、新評議員、理事の推薦等のため、年間７回の理事会、４回の評議員会を開催した。評議員選任解任委員会も２回開催した。　理事会、評議員会、評議員選任解任委員会の詳細は、下記のとおり。

平成２８年度　理事会

会議名	日　時	出席者数	議　事
第１回理事会	平成 28 年　5 月 28 日(土) 16：00　～17：00	理事７名 監事１名	○平成 27 年度事業報告について○平成 27 年度決算報告について○平成 28 年度補正予算について○障がい福祉事業開設について
第２回理事会	平成 28 年　8 月 25 日（木） 19：45 　～20：30	理事６名 （内書面表決２名） 監事２名	○障がい福祉施設整備のための土地取得について○土地取得に伴う第 2 次補正予算について○社会福祉施設等整備補助金の事前協議書の提出について○就労継続 B 型事業所立上について
第３回理事会	平成 28 年 11 月 28 日（月） 19：30 　～20：30	理事７名 監事２名	○半期事業報告及び収支決算報告について ○補正予算について○定款の変更について○評議員選任及び解任委員会設置及び運営規定について○評議員選任及び解任委員の選任について
第４回理事会	平成 29 年　1 月 26 日（木） 18：00～19：15	理事７名（内書面表決２名） 監事１名	○評議員候補者の推薦について○評議員選任解任委員会の招集について
第５回理事会	平成 29 年　2 月 9 日（木） 18：50～20：10	理事７名 （内書面表決１名）監事０名	○評議員候補者の推薦について ○評議員選任委員会の招集について
第６回理事会	平成 29 年　3 月 10 日（金） 19：30～20：30	理事７名 （内書面表決 1 名）監事２名	○平成 28 年度補正予算について○平成 29 年度事業計画について○平成 29 年度予算について○理事の辞任及び新評議員について○理事の就任及び評議員選任解任委員について
第７回理事会	平成 29 年　3 月 31 日（金） 18：30～19：30	理事６名 （内書面表決１名）監事１名	○評議員会運営規定について○理事会運営規定について

平成２８年度　評議員会

会議名	日時	出席者数	議事
第1回評議員会	平成 28 年　5 月 28 日（土） 14：00～15：30	評議員 13 名 監事　　1 名	○平成 27 年度事業報告について○平成 27 年度決算報告について○平成 28 年度補正予算について○障がい福祉事業開設について
第2回評議員会	平成 28 年　8 月 25 日（木） 18：30～19：30	評議員 11 名 監事　　2 名	○障がい福祉施設整備のための土地取得について○土地取得に伴う第 2 次補正予算について○社会福祉施設等整備補助金の事前協議書の提出について○就労継続 B 型事業所立ち上げについて
第3回評議員会	平成 28 年 11 月 28 日（月） 18：30 ～19：30	評議員 14 名 監事　　2 名	○半期事業報告及び収支決算報告について○補正予算について○定款の変更について○評議員選任及び解任委員会設置及び運営規定について
第4回評議員会	平成 29 年　3 月 10 日（金） 18：30 ～19：30	評議員 14 名 監事　　2 名	○平成 28 年度補正予算について○平成 29 年度事業計画について○平成 29 年度予算について○理事の辞任及び新評議員について○理事の就任及び評議員選任解任委員について

評議員選任解任委員会

会議名	日時	出席者数	議事
第 1 回評議員選任解任委員会	平成 29 年　1 月 27 日（金） 9：30 ～12：00	外部委員 1 名 監事　　2名 事務長 議案提案者(理事長)	○ 評議員選任・解任委員会　委員長の選出 ○ 評議員選任について
第2回評議員選任解任委員会	平成 29 年 2 月 21 日（金） 10：00～11：00	外部委員 1 名、監事 2名、事務長　議案提案者（理事長）	○ 評議員選任について

（２）福祉啓発、地域交流事業

①介護の集い

	第1回:6 月 11 日（土）	第2回:11 月 26 日（土）	第3回:3 月 4 日（土）
参加	一般参加者 15 名、ボランテア 1 名、	参加者 14 名、職員 5 名	参加者 25 名、職員 21 名
活動内容	○リフレッシュ旅行 ・石見銀山 ・道の駅キララ多岐	○家族同士の交流会 ・金太郎の家の活動紹介 ・お好み焼き作り ・各家庭の事情を話し合う	講演「介護者の苦しみと喜び」 福祉哲学研究所　所長 秋山智久先生

②地域交流行事等

福祉啓発、地域交流を目的に、「おちらとウォーキング」「夏休みこどもクリーン活動＆交流会」「荘原コミュニティセンター文化祭への参加」等の行事を実施した。ご利用者の方からの要望も多く、2 年ぶりに「なごみ会」を開催した。

事業名	開催日	開催場所	対象	参加者数	活動の内容、様子など
夏休み子ども交流会	7 月 29 日	荘原駅 第 3 活動棟	近隣の小学生、金太郎倶楽部参加者	小学生 17 名、倶楽部 9 名 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ 5 人	荘原駅及び歩道のクリーン活動をしながらウォーキングを実施。金太郎の家到着後、金太郎倶楽部の皆さんと絵手紙作りで交流。
荘原文化祭への参加	10 月 15 日、16 日	荘原コミュニティセンター	荘原地区の方		ご利用者の作品展示、バザー（焼きそばの販売）にて参加した。地域の方と交流ができた。
おちらとウォーキング	10 月 10 日	永徳寺、八神姫神社、一畑灯篭 四季荘で昼食	視覚障がいのある方、地域の方など	参加者 25 名 講師 1 名 ボラ 6 名 職員 9 名	金太郎の家を出発し、永徳寺や八神姫神社など地元の史跡をめぐるコース。坂道が多く大変であったが、講師の説明もわかりやすく、参加者は興味を持って聞かれていた。
なごみ会	11 月 5 日	出雲空港ホテル	金太郎の家ご利用者，ご家族、地域の方	利用者 73 名 ご家族 10 名 来賓 10 名 職員 36 名	2 年ぶりの開催。日頃の感謝と利用者同士の相互の交流を目的とした。今回は利用者の方と職員の出し物中心でプログラムを組んだ。芸達者な職員も多く、和やかな雰囲気でよかった。発表の場があることで利用者の方も喜んでおられた。進行もスムーズだった。
クリスマスコンサート	12　月 24 日	第 4 活動棟	就労支援Ｂ利用者、地域の方々	地域の方々、ご利用者	日中支援を利用している小学生の発案で、開催。山陰フィルハーモニーから木管奏者 5 名が来所。クリスマスにちなんだ曲を演奏。玄関と縁側ではフリーマーケットを開催した。急な思い付きで広報が十分ではなかったが、周辺の方々が多数来場下さり、折り紙もプレゼントし手作りの温かいコンサートとなった。

（3）情報の発信

機関紙「金太郎便り」「金太郎便りライト」を年５回発行し、ホームページも更新するようにした。フェイスブックでも、日ごろの活動や身近な情報をタイムリーに発信した。

（4）厨房

担当者：原　淳子

1．　　利用状況、利用傾向

・介護保険利用者２５人、集いの場利用者５～２０人、日中支援・就労利用者４～８人、
配食弁当５人、夕食６人の食事を提供した。昼食は、多い時には 40 食より多くなる事もあった。
・配食弁当は、火・木・金・土曜日の定期利用もあるが、不定期利用もあり日により個数は変わる。
・介護保険利用の方で、年度後半に新規利用の方が多くなり、嗜好・食事形態に配慮の必要な方も
多く見られた。

2．今年度力を入れて取り組んだこと　効果

・前年度に続き、一年を通して１５日は御弁当の日や月一で昼クッキングを行なった。大きな変化は
なく、定着してきた。クッキングは主婦の腕が発揮出来る場として楽しんで頂けた。
・敬老週間では、喜んで頂けるようなメニューを考えた。「御馳走だね」と言う声が聞かれた。
・旬の食材を取り入れた献立作り、新しいメニューばかりでなく昔ながらのメニューも大切に
し提供した。献立は複数の職員で作成し、質の向上に努めた。

3．反省点　課題

・新規利用の方が多くなり、嗜好の把握が追い付かないこともあった。又、継続利用の方に於いても
変化が有り、食事提供をしても食べて頂けない事も有り、確認不足があった。嗜好調査を最新のものに
逐次更新していく必要がある。
・味の安定感にバラつきが出、分科会にて薄味で提供できるように話し合った。今後も時々確認が必要。
・配食弁当の配達の連絡が不徹底で利用の方に迷惑をお掛けしたことがあったので、気を付けたい。
・厨房内の清掃を徹底し、衛生管理を徹底していきたい。
・調理担当者の体調不良の為、主担当が日替わりに成る事が多く、事務が滞ることがあった。

２．老人デイサービス事業

（１）介護保険　地域密着型認知症対応通所介護（介護予防）

管理者：阿食玲美

1．利用状況、利用傾向等

・年度初めの頃は概ね順調に利用率が維持できていたが、秋口~冬場にかけて利用が減少し 1 月は平均
利用人数が 10 人を切った。しかし年度末にかけてまた徐々に利用率が回復傾向にある。利用率減少の
背景として、週 3～4 回以上利用されていた方が相次いで入院や入所になってしまったことや、新規の
利用者の紹介が来なかったことなどがあげられる。
・延べ利用人数は、3359 人で、昨年と比較すると、171 人の減、収入は 41,657,580 円で、約、465 万
円の減であった。年間の平均利用人数は、12 人定員の 10.84 人だった。
・男性利用者が増加傾向にあり、現在男女比がほぼ１：１である。
・旧出雲市や平田など遠方から利用してくださる方も増えてきている。
・利用者の平均年齢は 83.59 歳で 70 代など比較的若い方も多い。
・全体的な利用者の特徴として、ADL は良好で体の動きはよいが認知症状が進行し物事の理解が難しい、

他利用者とトラブルになる､帰宅願望が強い等のケースが多いため､必要に応じて個別に対応している。

２．今年度力を入れて取り組んだこと　効果

・利用率が減少したため、通所の職員で何度か対策について話し合いを設けた。金太郎の家のデイの特徴（延長サービス、デイでの洗濯、送迎時の着替え服薬介助の実施等柔軟な対応を実施）を改めてまとめ、各居宅支援事業所に訪問して直接説明し、新規の依頼をした。また、認知症対応型デイとして、困難ケースの受け入れを積極的に行った。

・男性利用者の方が多いため、就労の事業所と協力してネギ箱作りを行なったり、畑や庭仕事など作業的な活動内容を充実させるよう心掛けた。利用者の方も室内活動ばかりよりも、体を動かすことの方が得意な方が多く、皆さん生き生きと取り組んでおられる。外出や散歩、ドライブも積極的に行った。

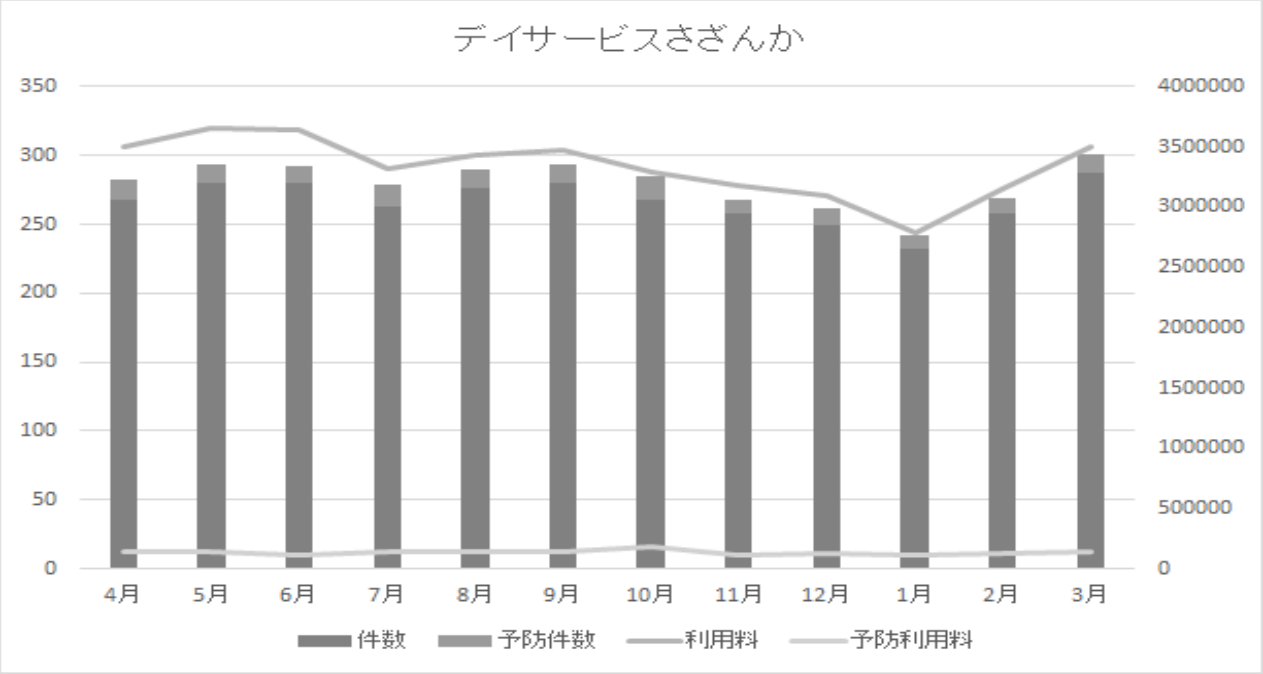
３．反省点　課題

・ 対策について話し合ったが、それきりで終わってしまい具体的な行動に移していないものも多くあった。環境整備もすすんでいないため、今後順次行っていきたい。

・認知症の BPSD への対応で困難な場面があったり、職員の接し方も言葉遣いも含めきちんとできていな部分もあったため、今後も認知症についてや接遇について職員間で定期的に勉強していく必要がある。

【地域密着型認知症対応型通所介護　利用延べ人数、平均人数】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
延人数（） 内介護予防	283 （15）	294 （14）	292 （12）	260 （16）	290 （14）	294 （14）	285 （17）	268 （10）	262 （12）	242 （10）	269 （11）	301 （13）	3359 （158）
平均人数	10.9	11.3	11.23	10	10.74	11.3	11	10.3	10.5	9.7	11.2	11.14	10.8



（２）介護保険　地域密着型通所介護（介護予防）

管理者：竹内一子

今年度より、所轄が島根県から出雲市に移行し、地域密着型通所介護事業所となった。

１．利用状況、利用傾向

・利用者人数の減少はなく、平均が 11.89 人であった。住宅改修のために毎日使いたいと言う希望の方もあり、定員を平成 29 年 2 月 13 日より 12 人から 13 人に増員した。ベッドを追加購入したり食事のテーブルを折りたたみに交換し、食事の椅子も増やした。活動棟の炬燵も追加した。

年間の利用延べ人数は 3685 人で、昨年より 105 人の増、収入は、36,088,898 円で、昨年より約 125 万円の増であった。

・男女比では圧倒的に女性が多く男性は３人で変化していない。見学に来られた方も、女性が多い為に他の事業所を選ばれた方もあった。

・新規で利用された方は要支援者が多かった。要支援だが入浴を希望され、入浴していただいている。また、一週間の内、１～２回の利用だったり、月に１～２回の利用の方が多数あり、全体の登録人数が多くなっている。

２．今年度力を入れて取り組んだこと　効果

・傾向として、身体機能が低下している方が多く、歩行が不安定で、移動される際には必ず見守りや付添が必要な方が多かった。遠足や周辺の散歩時も注意を払った。

・独居の方で、食欲が減少し認知症も加わり体調が悪化した方に、スタッフが交代で訪問し、昼食を一緒に食べるようにしたり、夕食を食べて頂いてからお送りするようにした。冬は 16：30 に暖房を入れて部屋を暖かくし、夏は冷房を入れて部屋の温度管理も行い、甥御さんやヘルパー他、様々な職種が協力して最後まで在宅生活を援助した。

・認知症の為に、ご家族で対応されるのに限界を感じておられ、デイを利用される３日間の利用時は毎回夕食を食べて帰られた方もあった。また、娘さんの仕事や家族の状況で時間を遅くお送りしたり、泊まりを希望され、宿泊の対応をさせて頂いたりした。

・脳トレを希望される方の割合が多く、クロスワードや間違い探し等の活動を多く実施し達成感を感じて頂けるよう配慮した。

・下肢の筋力低下が見られたため、新聞紙やボール等の道具を使って下肢の運動を行った。

・個別に踏み台の昇降を希望された方があり、交代で付添いし段の昇降をして頂いた。

・要介護度で利用されていた方が、体調も良くなり、要支援になられた方もあった。

・事業所玄関の出入りに車椅子利用の方用にスロープを使うようにし、安全に利用者の方も不安なく出入りが出来る様になった。室内用の押し車も寄贈頂き、安全な移動に心がけた。

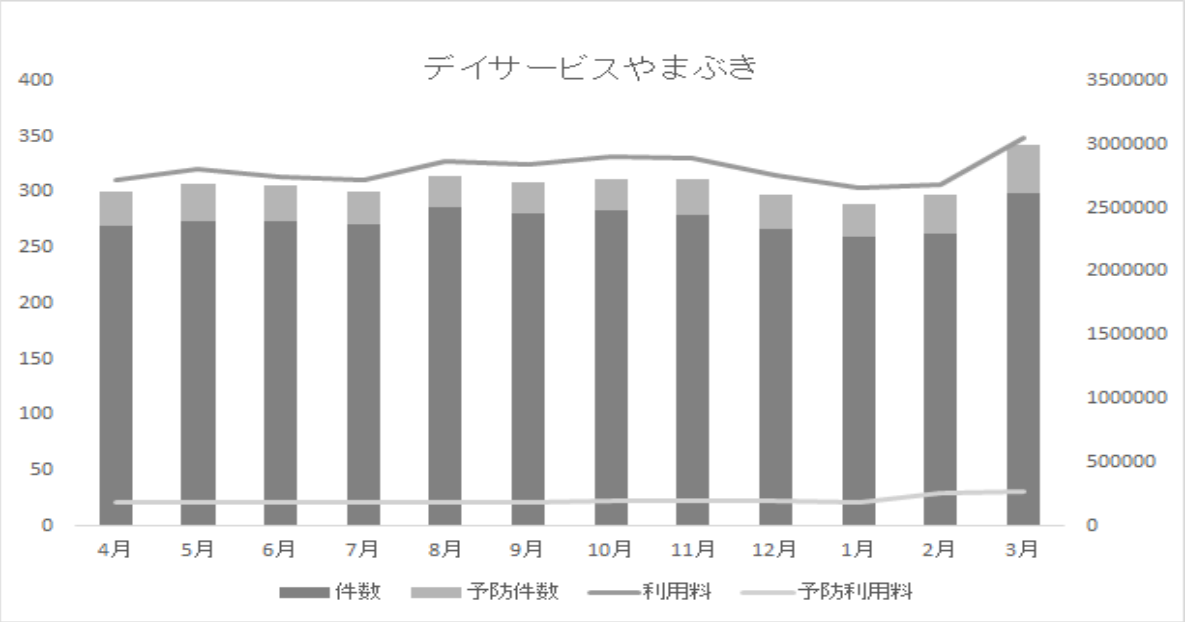
３．反省点　課題

・下肢の筋力低下や病気の為もあるが、立位時のふらつきで転倒されたり、室外用押し車を使用した際本体の固定が出来ておらず転倒された方があった。同じ失敗をしないよう最大の注意を払っていかなければならない。

・ベッドで午睡を希望される方が多くなり、限られたスペースなので、準備や片付けにスタッフの負担が大きい。手が空いたスタッフの協力を得る等、今後検討する必要がある。

・引き続き、下肢の運動を充実させ、筋力の維持向上を行っていく必要がある。

・話をすることを楽しみにされている方が多く、おしゃべりややりたいことがいつでも自由に出来るスペーを設けていきたい。



【地域密着型通所介護　利用延べ人数、平均利用人数】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
延 人 数 () 要支援者数	269 (31)	274 (33)	274 (32)	271 (30)	286 (28)	281 (28)	283 (29)	280 (31)	267 (30)	260 (29)	262 (35)	299 (43)	3306 (379)
平均人数	11.5	11.8	11.8	11.6	11.6	11.9	12.0	12.0	11.9	11.6	12.4	12.7	11.9

【通所介護時間延長サービス　利用延べ人数】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
地域密着型	38 人	33	33	12	12	0	17	27	22	24	16	26	260
一般型	29	24	22	10	4	12	12	16	10	12	15	14	180
合計	67	57	55	22	16	12	29	43	32	36	31	40	440

（3）居宅介護支援事業

担当者：　錦織　淑子

1．利用状況、利用傾向

・月 80 名から 85 名の利用者数で推移する。

・男女比は 1 対 3 位。要介護 1 と要介護 2 の方で 6 割を占めている。

・認知症対応型デイサービスは金太郎の家を希望される方が多くケースの中でほぼ 100%利用

・新規の受け入れは金太郎の家を希望される方はお断りせずに受けているが、1 人で担当するケースの数が多くオーバーワークとなっている。

・金太郎の家集いの場の利用者が介護保険の利用を希望されケアマネを受けることが増えている。

・ぎりぎりまで家族で世話をして認定を受けた時は認知症や病気が悪化しているケースもあった。
・息子が一人で親の面倒を看ているケースを続け受けた。仕事もしながらの介護で大変だと思う。
・年間利用延べ人は、1024 人で昨年より 38 人、約 577000 円の減であったが、困難ケース、濃密なかかわりを必要とするケースに積極的に取り組んでいった。

２．今年度力を入れて取り組んだこと　効果

・居宅の事務所を２階に移動して仕事がスムーズにできるようになった。
・入院から退院されるまでの間も関わりを持ってスムーズに在宅へ繋げられるように病院の相談員との連携に力を入れた。
・困難事例は、一人で抱え込まないで他のケァマネに相談しながら対応するようにした。
・分科会をケァマネだけで行う様になり意見も出しやすい雰囲気で共通の認識が持てた。
・２９年度から始まる総合事業についての研修には出来るだけ参加した。
・サービス事業者との連携をとることで本人や家族が在宅で安心して暮らせるように配慮した。
・困難事例に（虐待が疑われる例、認知症の一人暮らしの方、障害がある若年の方等）に対して安心支援センターや市役所、病院と連携し取り組んだ。

３．反省点　課題

・ケアマネの分科会の内容については検討が必要。
・　目の前の問題点や書類作成に追われ、記録が間に合わない事があり注意していきたい。
・まめネットの活用が出来ていない。
・訪問時に家族の困った事を聞きすぐに対応しているが、見直しが充分出来ていないのが反省点である。
・総合事業に対して具体的に動かなければならないが研修だけでは分からないことが多くあんしん支援センターに確認する等で対応していきたい。

【居宅介護支援　利用延べ人数】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
利用人数	８４	８６	９１	８３	８４	８３	８５	８３	９０	８２	８２	９１	1,024

（4）自主デイサービス（集いの場等）

１．集いの場の活動

地域の高齢者、障がい者を対象に自主事業として、「集いの場」を提供した。これは、平成 11 年から続けているもので、本年度は「金太郎倶楽部」「金太郎大学」「歌う青空の会」「なごみ川柳会」「木曜会」の 5 グループに分かれ、第 3 活動棟を使って活動した。火、金曜日毎週、木曜日は月 2 回開催、年間合計 12 1 回開催した。延べ利用人数は、1,408 人であった。

各グループの活動状況は、下記の通り。

	H27年度集いの場　利用状況　　延人数　　（開催回数）					
	歌う青空	木曜会	金太郎大学	川柳参加人数＋投句のみ	金太郎倶楽部	合計
4月	13(1)	23(2)	20(1)	2+2(1)	68(6)	126(11)
5月	14(1)	20(2)	17(1)	3+2(1)	65(5)	119(10)
6月	14(1)	20(2)	16(1)	3+2(1)	61(5)	114(10)
7月	11(1)	29(2)	18(1)	3+2(1)	67(6)	128(11)
8月	12(1)	20(2)	14(1)	3+2(1)	45(4)	94(9)
9月	12(1)	21(2)	15(1)	3+4(1)	68(6)	119(11)
10月	14(1)	17(2)	20(1)	3+4(1)	66(5)	120(10)
11月	13(1)	22(2)	18(1)	4+2(1)	76(6)	133(11)
12月	14(1)	19(2)	21(1)	3+1(1)	51(4)	108(9)
1月	16(1)	24(2)	17(1)	3+6(1)	53(4)	113(9)
2月	10(1)	24(2)	18(1)	3+2(1)	54(5)	109(10)
3月	12(1)	23(2)	19(1)	3+4(1)	68(5)	125(10)
合計	155(12)	262(24)	213(12)	36+33(12)	742(61)	1408(121)

ア.金太郎倶楽部　　担当　足立憲昭

１．利用状況、傾向

・第1,3,4,5火曜日、第1,2,3,5金曜日に開催。

・利用者数も15～16人と増え、年齢層も幅広くなり、皆と一緒に共有できる話題を提供したり、グループに別れて語り合う場面にするなど、内容に変化を付けた。

・デイサービスと金太郎クラブの両方を利用される方が増えた。

２．今年度力を入れて取り組んだこと、効果

・室内活動の際、季節感や地元感を盛り込んだテーマを取り上げ（旬の食材、紅葉、台風、正月行事等々）、パワーポイントで資料を作成し、プロジェクターで画像を映し出しながら話題を提供することにより、利用者の関心を引きつける工夫をした。

・視覚を刺激することにより、ご自分の経験・思い出を話していただく機会が増えて、利用者様同士の会話も盛り上がりやすくなる効果があったと思う。

３．反省点、課題

・取り上げたテーマや投げかけた質問に対して反応の早い方とそうでない方がいらっしゃる。ついつい反応の早い方に合わせた進行をしがちになることがあった。全体のバランスを見ながら進行し、参加者全員が満足感を得られるように心がけていきたい。

・季節感を肌で感じてもらうための「花の鑑賞ドライブ」や「ぶどう狩り」等は非常に喜ばれるので今後もこまめに取り入れていきたい。

イ．金太郎大学

１．利用状況、利用傾向　　担当　目黒代志子

・第 4 金曜日に開催。

・講師：川上茂先生による出雲風土記の本を元に、話をすすめて頂いている。毎回、クイズ形式や謎解きなど思考を凝らした内容である。また、池田敏雄先生にも数回参加していただき、郷土の歴史、神社について話をしていただいた。参加者も増加傾向にある。

２．今年度力を入れて取り組んだこと、効果

・講師の先生と利用者との距離を近づけ、話し掛けやすい質問しやすい、相互関係を心がけたが、内容が少し高度になり、特に町外の専門的な話になると、質問もできず話せる利用者が限られてきた。アンケートにも取り組んで、内容を再検討している所である。

３．反省点、課題

・内容を出雲風土記、歴史だけに限らず、前半には一つのテーマを出し、自発的に発表していただく場を提供していきたい。（自分たちが体験してきたこと、地元の古くから伝わっている話など）

ウ．歌う青空の会　　担当　足立憲昭

１．利用状況、傾向

・第 2 火曜日に開催。

・長年指導してきて下さった尾原先生が、体調不良によりご退任され、今年度より職員が引き継いで会を進行している。

・利用状況としては、１８名の登録メンバーで平均出席率は７７％であった。月別の利用状況を見ても、極端に少ない月はなく安定して利用して頂いている。

２．今年度力を入れて取り組んだこと、効果

尾原先生から引き継ぎ、曲の伴奏をカセットから足立のリコーダー&オカリナに変更した。利用者様の歌うスピードや Key に合わせ易くなったと思う。

また懐メロパートでは Ｉ　pad とプロジェクターを使用することにより映像をタイムリーに映しながら歌を楽しんでいただけるように工夫した。懐かしい映像や歌詞がスクリーンに映るので視覚を刺激して満足感は高まったと思う。

３．反省点、課題

・季節感やタイムリーな話題（亡くなった作曲家や歌手の特集）を選曲に取り入れているが、利用者様のリクエストをもっと取り入れていきたい。

・リクエストの聞き方に工夫が必要だと感じている。（控えめな利用者様からの引き出し方など）

エ．なごみ川柳会　　主任　西　博美

１．利用状況、傾向

・第3火曜日に開催。

・なごみ川柳会として H12 年発足して以来、毎回 10 名以上のご参加があり、沢山の方々に川柳を楽しんで頂きました。めきめき腕を上げられ、賞を頂かれた作品も数多くあった。

・17 年の年数を経る内に高齢化と共に亡くなられた方も少なくなく、現在参加者 2～3 名である。新し

い会員を募集したが、昼食付き、参加料が高い、作るのが難しい等々の理由で集まり難い状況である。
・参加できなくても、作っては投句される方が近年増えてきた事も、嬉しい状況であった。作品が山陰中央新報に掲載され、皆さんも読まれた方から声を掛けて貰われ、励みになっている。

２．今年度力を入れて取り組んだこと、効果

・作品作りと共に、健康作りの為の情報交換や社会時事、教育や人生について話し合って交流した。
・参加できなくても、投句だけでもと声掛けして、デイの方からも投句されるように流れができてきました。講師の方からの評価やお話を投句の方に、冊子をお渡しする時に先生のお話や指導内容をお伝えし、意欲を持って頂くように働きかけて、投句が増えてきた。

３．反省点、課題

・長年に渡り、参加して下さっていた方が、次第に亡くなられ、人数も少なくなり、地域への川柳の PR や広報活動もスムーズに進まない状況で、担当として非常に心細い気持ちであった。しかし、「川柳作りで頑張ろうという気になる」「脳トレの為にも続けたい」「気持ちが分かるよ」「金太郎の名前が出てると嬉しい」等、いろいろな方面から声を頂き、少しでもたくさんの方々に川柳に広めていきたいという気持ちを新たにした。
・金額ややり方を相談して、値下げして、時間を午前中で短くして昼食なしの形を取っていく事となり、参加者の方々にも説明し、了解を頂いた。皆さんの声を聴きながら、進んでいきたい。

オ．木曜会（相撲甚句の会）　　担当　坂本道夫

１．利用状況、利用傾向

・月２回、第 1、第 3 木曜日に開催。
・会員の皆様が毎回楽しみに来てくださり、すごく励みになっている。発足 6 年経過し相撲甚句の「節」を大体覚えて来られ、大きな声が出るようになった。（自信がついたと思う。）
・クイズ、脳トレ、健康体操、ハーモニカによる懐メロと合唱も興味津々、大変喜んでいただいている。
・新しい会員様も徐々に増加し嬉しく思っている。

２．今年度力を入れて取り組んだこと　効果

・マンネリにならないよう、毎回皆様に興味を持って頂けるように日々情報収集に努めている。
・新しい会員様も入られたので、分かりやすく、また楽しんでもらえるように指導させていただいている。新しい会員様よりこの会に入ってから相撲や相撲甚句に興味がわいてきたよ！と話され、効果を感じている。
・利用者様によるテレビ「ガッテン」の解説を、皆さんとても関心を持って聞かれ、感謝している。
・とても家庭的な雰囲気な会になっている。

３．反省点　課題

・皆様年を重ねて来られ、椅子での利用が段々と増えてきた。
・会員様が増加傾向にあり、今後の対応を考える必要がある。発表の場を確保したい。
・視覚障害のある方への対応を考慮していきたい。

３．訪問介護事業の経営

（１）介護保険　訪問介護事業

管理者　竹内淳子

１．利用状況、利用傾向

・予防介護・要支援介護認定受けた方の自宅を訪問し、身体介護、生活援助、通院等乗降介助を行った。訪問計画書を作成して計画的に行い、ご利用者の自立支援、疾病の悪化防止、安全の配慮を行い、在宅生活を支援した。

・毎月 500 件の訪問件数があり、継続または新規の利用者の依頼にも積極的に対応した。

２．今年度力を入れて取り組んだこと、効果

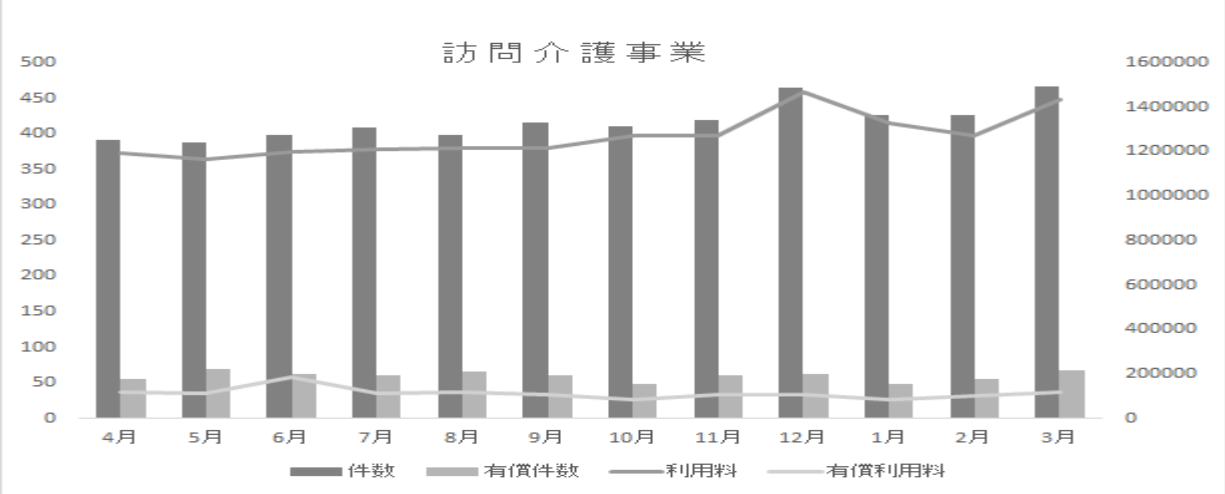
・ご利用者の方の話を傾聴して、コミュニケーションを取り信頼関係を築き、在宅生活の継続に向けた相談援助を行った。訪問先での気づきや利用者さんからの要望、会話の中で気になった事等、些細な事でもサービス提供責任者、ケアマネージャーに報告してヘルパー同志で情報共有し、より良いサービスの提供に心がけた。

・利用者さんからの訪問時間の変更希望には調整して対応した。

３．反省点、課題

・ヘルパー人数の都合上、決まった時間に訪問出来ず時間変更をお願いする事がありご迷惑をかけた。

・利用者さん、ヘルパーへの連絡もれがあり、連絡調整をしっかりとしていかねばならない。



（２）有償ヘルパー事業

介護保険で対応できない家事援助や、施設入所者の外出や帰省の支援、県外への旅行の同行、余暇活動など、ご利用者の希望に合わせ、幅広い内容の支援を行った。通院時の院内の受診時の付き添いなど、介護保険サービスと組み合わせて行うケースもあった。利用件数は、年間718件、月平均６０件であった。在宅生活を継続していく上で、無くてはならないサービスであると思う。

４．障がい福祉サービス事業

障がい福祉サービス事業として、居宅介護、同行援護、市からの委託事業として移動支援、他に、福祉タクシー、福祉有償運送事業を行なった。利用状況は、下記のとおり。

障がい福祉サービス利用延人数（人）												
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	計

居宅介護	86	92	112	124	117	135	134	142	163	135	157	142	1639
同行援護	3	1	9	4	4	5	6	7	4	6	4	12	65
移動支援	164	170	198	179	141	195	225	178	188	166	197	212	2213
78 条	322	326	382	375	261	340	385	366	376	335	364	365	4197
4 条	8 1	59	78	86	89	89	68	94	67	53	89	66	929

（1）居宅介護、同行援護、移動支援

１．事業実績（利用状況、利用傾向）

居宅介護：利用者宅訪問し、身体介護（入浴、共にする家事）、家事支援（調理、掃除、育児支援）を行なった。急な追加訪問や当日不在など予定通りにいかないこともあった。

・育児支援においては保育所送迎、子供さんの入浴支援など利用者の要望に合わせた支援を行った。

同行援護：定期的に第３，４週利用と不定期利用１名あり、利用者の要望に合わせて外出の付き添いを行なった。買い物、ジムトレーニング、散歩など行い視覚的情報を分かりやすく情報提供をした。

移動支援：毎日の定期利用から数か月に１回の不定期利用あり、福祉送迎、通学、外出の付き添いまで幅広く支援しました。ご希望の内容など利用者のニーズに合わせた支援を行った。

・利用傾向は出雲市、松江市在住の方に支援を中心に行い、月によってばらつきはあるが、平均 220 人の利用があった。

・通学支援の依頼が多くあり、より多くの利用者の要望に応えるために養護学校行き帰りは２～３人同乗のグループ支援を実施した。

・営業時間以外に早朝や夜間にも対応。日曜日の支援も受け、幅広くニーズに応えた。

２．今年度力を入れて取り組んだこと　効果

居宅介護：ニーズに沿った計画書を作成し、統一した支援の取り組みをした。

・相談支援専門員への報告、連絡等の関わりを多くして様々な角度から全体像を見ることが出来た。

同行援護：利用者の安全を見守り、的確に情報を伝えるよう心掛けた。外出を楽しみにし継続的に利用された。

移動支援：養護学校通学グループ支援において、朝小学部１年生２名の学校送りの際車内の安全や駐車場から校舎までの安全に過ごして頂くための対策を考え、別便のヘルパーも協力して付き添いをした。

・利用者の状況に変化があった時には都度職員同志話し合い、スムーズに対応することが出来た。

・毎日利用される方の支援を通し、家族の方から信頼されより良い関係を作ることが出来た。

３．反省点、課題

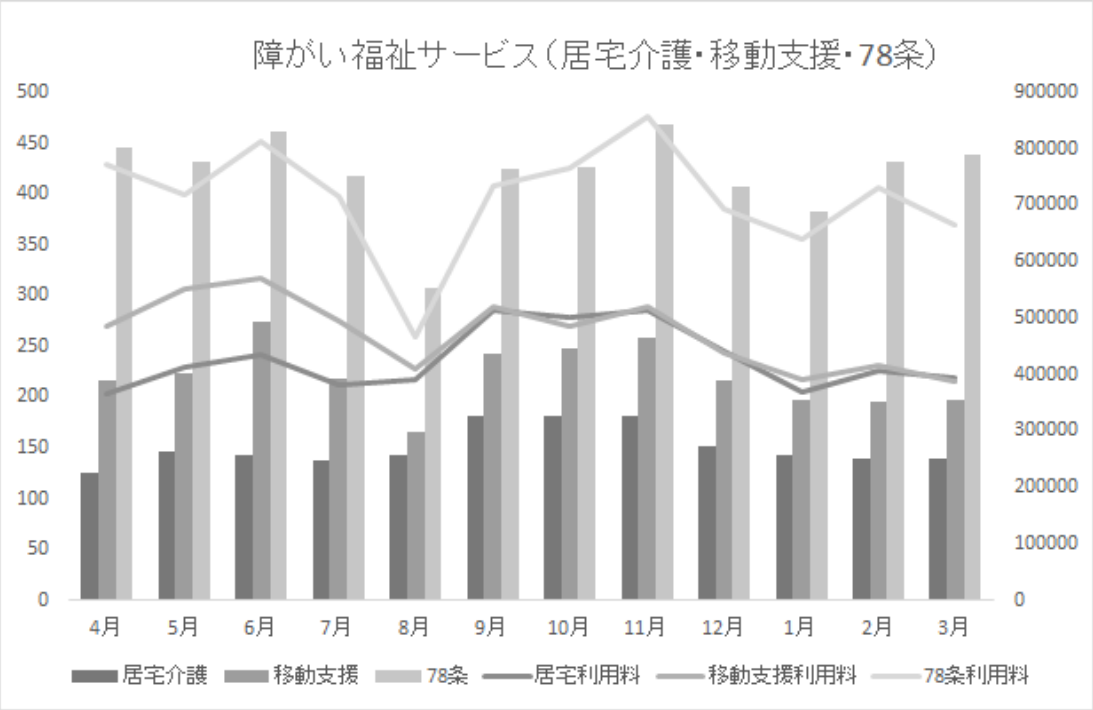
居宅介護：ヘルパー人員の都合で決まった時間に訪問出来ず、訪問時間変更をお願いする事があった。

同行援護：男性利用者には男性職員を希望されたこともあり、今後も定期的な利用を男性ヘルパーが関わるような体制作りに努めるようにしたい。

移動支援：グループ支援の提供にあたり、安全に過ごすために、いろいろな想定される事を事前に聞き取り、対応を考えておくようにした。

・利用者の特性を職員間で共有し、統一した手順で対応するようにしたが、不十分なところもあった。

・９月に移動支援中に後続の車両に追突され、利用者１名職員１名が負傷する事故があった。



（２）就労支援事業Ｂ型

１．事業実績（利用状況、利用傾向）　　サービス管理者　阿食羊志子

・11 月からの事業開始で、当初はそれまで日中一時支援やデイサービスを利用されていた方が、就労Ｂ型に移行されたり、今までの何らかのつながりのある方々を含め５名でスタートした。12 月には更に５名の契約を得、１～２月は低迷したものの３月には２名の方が契約をされるとともに、体験中の方も４名おられ正式利用に向かわれている。

・体験中の方も含め、ほとんどの方が障害手帳を持たれ、区分としては身体が２名、知的が５名、精神が７名となっている。身体や知的な方の利用は比較的安定しているが、精神の方については体調不良での欠席が多く見られ、来所されても横になって休まれる事が多く、作業には向かわれない方もおられる。

２．今年度力を入れて取り組んだこと　効果

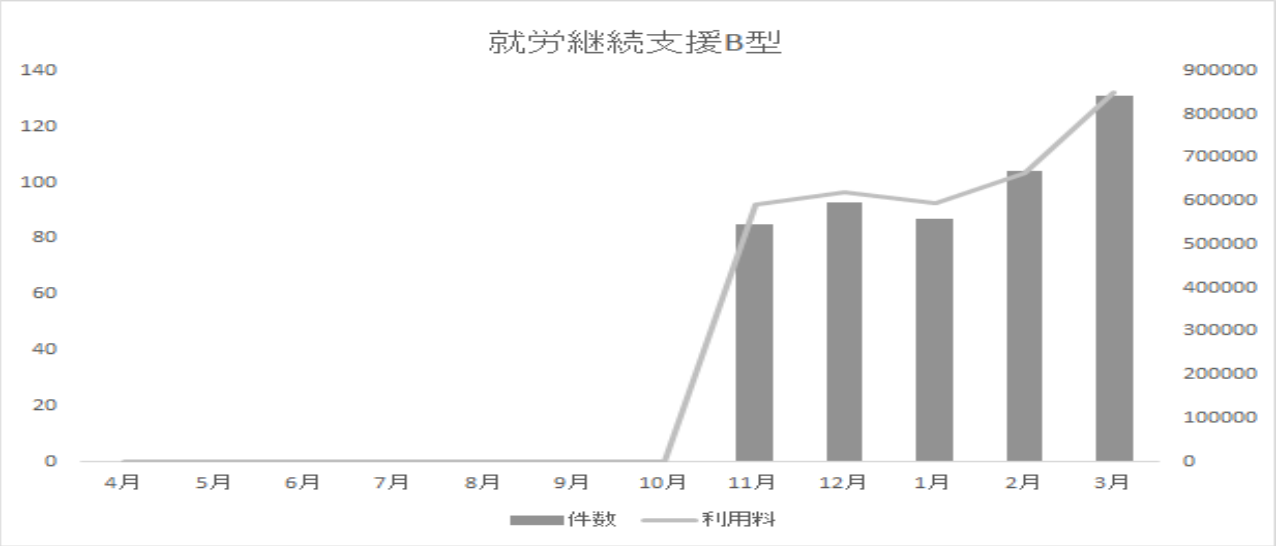
・全くゼロからのスタートで、作業の開拓に足を運び、内職を中心に出雲空港トイレ清掃やネギ箱つくりなど、定期的に安定した作業も得ることができた。内職においては納期厳守はもちろんのこと、丁寧な作業に心がけ、信頼を得ることにより次への安定した受注につなげることができている。

・利用者の方々に対しては、和やかな雰囲気つくりに心掛けるとともに、一人一人の対応を大切にし、ここにあった作業・選択をその時々の状況に合わせて臨機応変に行い、フォローしながら達成感を抱いていただく中で次への就労意欲に繋がるようにした。利用者の中には、まず家から一歩出掛けることが大きな課題の方々もおられ、それぞれ個々の特性をとらえながら、すぐには就労に繋がらなくてもまずは自分の居場所として安心して過ごしていただけるように細やかな配慮に心がけ、体調の良い時に少しずつ作業をしていただくようにした。

３．反省点、課題

・利用される方が増える中で、安定した工賃を出すためには、安価な内職に頼らず、新たな作業の開拓や、できるならばオリジナル商品の開発等々積極的な行動が求められているものの、なかなか日々の作業に追われ、すすめられないもどかしさ、収入を得ることの難しさを感じさせられている。

・利用者の中にはもっと一人対応できちんとすれば、作業が可能な方もおられるが、十分な対応ができていない。工賃の算出方法も再検討が必要で労力に見合った適正な額が算出できるようにしなければならない。収益も大切だが、就労Ｂ型としても当事業所で求められているものは何か、ここを求めてこられる方々の想いも大切にしながら職場づくりを進めていきたい。



（３）福祉移送（福祉タクシー、有償運送）

１．事業実績（利用状況、利用傾向）　　運行管理者　森山幾美

福祉タクシー（４条）；２種免許を取得した運転士が車椅子を使用されている方や障がいのある方、内部疾患のある方の外出や通院のサポートを行った。出雲市や松江市の発行するタクシーチケットにも対応し、予約制ではあるが当日の依頼にもでき得る限り対応した。施設入所されている方の外出や通院の依頼が多くなってきた。

有償運送（７８条）：ヘルパー２級及び介護職員初任者研修受講修了者が、運転者講習を受講し、陸運局の許可を得て、訪問介護事業の通院等乗降介助、移動支援、居宅介護の通院乗降介助、同行援護等と組み合わせた移送を行った。定期利用の方が多い。急な依頼にもできる限り対応した。

２．今年度力を入れて取り組んだこと、効果

・安全運転を常に心掛け業務に取り組んだ。

・依頼に漏れのないような体制を心掛けた。また、予約時間に遅れることのないよう、交通事情の報告等を共有した。前の付添が長引いたため次の移送に遅れそうな場合など早めに事務所に連絡を入・れ、他の職員が代わりに向かう等できるだけ利用者の方にご迷惑をかけないよう努めた。

・付添の依頼も多くケアマネや家族と連携しご利用者の方の様子を書面にしたものを持参して対応した。

３．反省点、課題

・車内清掃には気を配ってはいたが、全車両までなかなか手が回らなかった。車両整備、清掃に心掛け、安全に気持ち良く乗車して頂けるよう徹底する。。

・毎年のことではあるが車両に傷が目立った。報告のないものもあったため、報告の徹底を全職員に再度周知していきたい。

・研修に積極的に参加し、介護技術の向上や病気や障がいに対する理解を深め、より質の高いサービ

スが提供できるよう努めたい。

《　月間利用延べ人数　》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4条（福祉タクシー）	67	90	81	56	56	96	70	86	93	93	75	124	987
７８条（有償運送）	487	478	524	461	348	464	472	517	436	428	478	484	5,577

［公益事業］

１．障がい者地域生活支援事業

（１）日中一時支援事業

管理者　竹内淳子

１．事業実績（利用状況、利用傾向）

・利用者、家族の要望に沿った内容を提供して個別対応も多く支援を行った。クッキング、散歩、外出、ねぎ箱折りなど行った。

・11 月より平日成人利用者が、就労継続支援 B 型に移行となり、利用件数は減少しているが、その他の児童利用者の方や夕方、不定期利用の方は継続利用された。金太郎の家を気に入って利用して下さり結果、継続利用となった方もある。

２.今年度力を入れて取り組んだこと、効果

・11 月より場所を第 4 活動棟に移し、過ごす環境も変わり不慣れな環境でも個性を生かせるよう個別対応を行った。

・今までの毎日職員一人体制から就労継続 B 型の職員も体制が整い、毎月の分科会開催や日々のミーティングを通して組織として事業の内容を充実し、統一した支援内容で提供することが出来た。

３．反省点、課題

・11 月以降、就労継続 B 型の利用者の方と一緒に活動することになり、常に個別に対応することが難しいこともあった。落ち着いて過ごせるよう引き続き環境作りは必要である。

・日中一時支援の良さを生かした支援内容に沿った対応をしていくことが必要である。民家として小規模な空間を大切にしていかなければならない。